



**認定NPO法人発足に伴う変更事項**  
 一般寄付・賛助会費は税控除の対象となりますので、領収書をお送り致します。

2012年12月1日から2013年3月1日までにご寄付頂いた皆様方のお名前です。ありがとうございました。

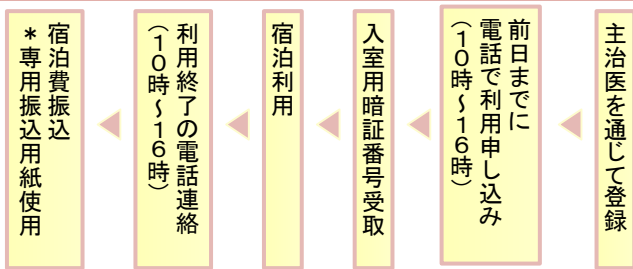
- \* \* \* \* \*
- ・ 莊氣横山様 酒匂 睦子様
  - \* 大藪 涼子様 八田 優子様
  - \* 伊地知 修様 久田 千佳子様
  - ・ 黒田 栄史様 八田 美由紀様
  - \* 奥田 由美子様
  - \* 医療法人 飯田耳鼻咽喉科様
  - \* 社会福祉法人 慶生会様
  - ・ 鹿児島県小児科会様
- \* \* \* \* \*

- 一般寄付  
 本法人の活動意義をご理解頂き、ご寄附を賜りますようお願い致します。現金収受の方法は、事務局へお問い合わせ下さい。
- 個人賛助会員：年会費・・・・・・12,000円
- 法人賛助会員：年会費・・・・・・120,000円
- 募金箱  
 募金箱をお置きいただける店舗・企業・他を募集しております。ご賛同いただける方は、事務局までご連絡下さい。  
 本法人の活動意義をご理解頂き、活動を支援いただける個人又は企業の入会をお願いしております。  
 入会申込書をホームページからダウンロードして事務局へお送り下さい。

「鹿児島ファミリーハウス」のご利用方法

- 鹿児島市内の病院に通院、入院する患児とご家族のための宿泊施設です。
- 基本的な電化製品・台所用品・寝具・他のご用意があります。
- 1,000円/1泊(宿泊人数は何人でもOK)でご利用できます。
- セルフサービス(清掃、ゴミの始末、その他)です。
- ボランティアの方達によって維持管理して頂いております。ご協力を。

ご利用の流れ



\* (注)要/事前登録/ご希望の方は主治医にご相談下さい。

篤志家のご協力の下に鹿児島市鴨池2丁目(鴨池電停から徒歩1分)にあるビルの部屋(1K、1DK)をご提供頂き、平成19年7月からNPO法人子ども医療ネットワーク運営の鹿児島ファミリーハウスが誕生しました。

お問い合わせ/子ども医療ネットワーク事務局 TEL 099-275-5354

お問い合わせ先

認定NPO法人子ども医療ネットワーク本部

〒890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8-35-1  
 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター小児科内  
 電話：099-275-5354

認定NPO法人子ども医療ネットワーク事務局

電話：099-275-5354 / FAX:099-265-7196

活動について・お約束

**活動** 離島やへき地など、小児医療の専門医が少ない地域に住んでいる子どもさんが、長期間の入院が必要な病気にかかった時に、ご家族を含めて安心して闘病できるように支援する事を目的に設立されました。又、難病等にかかり遠方から来院なさるおこさんとそのご家族にも広く門戸を開き、病気に対する不安や疑問を軽減し、外泊あるいは通院にかかる負担を軽減する為の事業を行います。すべてが皆様の共感とご協力のもとに運営されています。

**お約束** 皆様からお預かりした個人情報は  
 ・会員のご案内の発送以外の目的で使用する事はありません。  
 ・ご本人の同意なく第三者に開示・提供する事はありません。

ホームページは随時更新中です

<http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~ped/kodomoiryo/>

会員の方々と事務局を結ぶ.....

こねっと通信

2013.SPRING VOL.12

■ ファミリーハウス

■ 健康相談会・巡回診療

■ こども救急箱

■ ふれあいコンサート

■ その他



Save the Children  
 私達は離島・へき地の  
 難病児を支援します

すべてのこどもに適切な小児医療と  
 快適な闘病生活を

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)  
 子ども医療ネットワーク



## 当法人に寄附をされた方へ

鹿児島市の税金制度が  
変更しました。  
詳しくはホームページ  
をご覧ください。

<http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~ped/kodomoiryo/>



こねっと通信は、会員の方々と本部・事務局を結ぶコーナーです。ご意見・ご要望をドンドンお寄せ下さい。

### 《宛先》

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘8-35-1 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター

小児科内「こねっと通信」係

E-mail

[kodonpo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp](mailto:kodonpo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp)



## 理事長通信

平成25年2月に行われた

第8期定期総会は、昨年の法律改定の趣旨にそって文書での総会にさせていたいただきました。営利事業のない法人で事業報告に問題はありませんが、専従職員を雇用せず役員報酬も皆無ですから決算内容に疑義は生じにくいことと判断し、集合する時間と経費を節約する意味もあって文書総会を選択しました。

しかし、実際に文書総会をやってみますと全員から議決権行使書を提出してもらうことの大変さを痛感いたしました。資産状況もホームページで公開して透明性を確保しておりますが、法人としての運営は委任状と出席者の過半数での議決の方がやりやすいようです。公認会計士の柳元氏と相談して対応を決めたいと思います。

NPO法人運営の工夫は必要ですが、8期まで無事に歩むことができましたことを感謝申し上げます。(河野嘉文)



## 小児医療講演会 「予防が大切、 子どもの病気・事故」報告

子ども医療講演会

これまで徳之島では小児喘息の講演会・相談会の開催実績はあったのですが、今回はじめて総合的な講演会を鹿児島県と鹿児島県医師会、さらに地元徳之島の将来の医療と福祉を考える会の後援を得て、平成25年2月23日(土)に開催しました。

講演会のきっかけは、2012年に鹿児島県小児で細菌性髄膜炎にかかった4人のうち3人が徳之島であったことでした。もちろんこの事実が偶然であり、徳之島だけが予防接種率が低いわけではありませんが、住民の皆様が予防接種を知っていたら、よい機会であると考え、ワクチンの重要性について鹿児島大学微生物学分野教授の西順一郎先生に、事故防止について上原クリニックの田原博幸先生に、それぞれ「子どもを守る」視点から講演をお願いしました。同時に、本土でもへき地である伊佐地区で工夫して子育てにやさしい町づくりに取り組んでいる伊佐市の状況を、県立北薩病院小児科部長の福重寿郎先生に報告していただきました。

会場は非常に大きな徳之島町文化会館でしたので、写真のように閑散としておりますが、通常の講演会・相談会ではない50名以上の方が参加していただきました。小児科専門医が確保できない地区はたくさんあります。徳之島は人口と子どもの数、および離島であること、交通利便性を考慮すると、非常に深刻な問題だと思えます。だからこそ、内科や外科の先生方と鹿児島市内や奄美市の小児科専門医との協力関係の構築が重要です。住民の方々の予防に対する意識の向上が重要だと思えます。今後は個別相談会の開催を目指したいと思いますので、保健師さんをはじめ行政の方々のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



「こねっと通信」表面に掲載させて頂けるお子様の写真を募集しております。

上記住所にお送り頂くか、E-mail [kodonpo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp](mailto:kodonpo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp) まで  
〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘8-35-1 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター小児科内「こねっと通信」係

## こども救急箱

### 《飛行機で泣く赤ちゃん》

NPO法人こども医療ネットワーク会員

楠生 亮

(国立病院機構南九州病院 小児科)

2013年2月13日日本新聞掲載



出張などで飛行機を利用すると、赤ちゃんの泣き声を耳にすることがあります。私は小児科医なので、泣き声はそれほど気になりませんが、何で泣いているのだろうと思ってしまう。きつとおむつがぬれているか、おなかがすいているのだろうかと普通に考えていました。

同じように赤ちゃんにもこまめな水分補給がかかせません。飛行機は8分ほどで5千メートルの山の上と地上の間を登ったり降りたりするので、離着陸に強く泣く赤ちゃんも、耳が痛いです。大人はあめをなめたりガムをかんだりします。赤ちゃんには、おっぱいや哺乳瓶を吸ってもらい、もぐもぐさせてあげればよいでしょう。楽しみにしているおじいちゃん、おばあちゃんのために、赤ちゃんをつれての長旅をしなければならぬ方もいらっしゃると思います。赤ちゃんを大人に合わせるのではなく、弱い赤ちゃんに合わせた余裕を持った旅にしてください。インフルエンザなどの感染症が流行している時期には、人ごみの多いところを避けて待ちましよう。お母さんたちが風邪をひくと赤ちゃんも風邪をひくかもしれません。マスクや手洗いや消毒など感染対策注意してください。

飛行機の中の機内環境は2千メートルの山の中にいるのと同じで、空気の圧力も地上の80%だそうなんです。また機内の空気は乾燥しており、長距離飛行の場合には湿度が20%以下に下がることがあるようです。大人に比べて身体の中の水分比率が高い赤ちゃんは、より多くの水分を空気にとられて、お母さんより早くのどが渇かずに済みます。航空会社は、乾燥した機内環境をやわらげる目的もあると思います。私たちは機内サービスで飲み物を飲みますが、

※「こども救急箱」の記事は2006年4月から隔週に掲載されています。

